

2022年10月31日から11月25日まで外科で実習させていただいた一山創太郎と申します。三沢病院を希望したのは、県内にいながら海外の雰囲気を感じられる素敵なまちだと聞いており、そんなまちで1か月暮らしながら学びたいと思ったからです。

外科では術場（手術）と病棟で1か月間多くのことを学びました。

手術では、毎週多くの執刀が行われていました。鼠経ヘルニア・胆嚢炎・大腸癌・胃癌等の多くの疾患の手術に入らせていただきました。大学では下部消化管の疾患を中心に学んでいたため、それ以外の手術に関しては初めてのことばかりでした。

術中は、先生方から血管や臓器に関する解剖や、術式のこと、合併症に関する事など、多くのことを教えていただきました。正直わからないことばかりでしたが、一度わからなかったことはその日のうちに解決し、次の手術では十分にわかるように勉強を積み重ねていくことを心掛けて日々の実習に臨むことが出来ました。

また、糸結びや、縫合、カメラ持ち、開腹などの手技も経験させていただきました。先生方が術中に簡単そうにこなしている一つ一つの手技も、実際にやってみるとこんなにも難しいのかと驚くことばかりでした。特に縫合や糸結びは練習用のキットで練習していたものの、本番はやはり感覚が異なり全く思うようにできませんでした。上手いかなないと落ち込んでしまうこともありましたが、同時に今の自分に足りないものに多く気が付くことができました。将来何科に進むにしても基本的な手技は必要だと思うので、研修医になる前にこつこつと練習し、出来ることを一つずつ増やしていきたいと思います。

病棟では、担当患者さんのもとに毎日足を運び、患者さんの声を丁寧に聞くことを心掛けました。ベッドサイドラーニングという名の通り、患者さんのそばに行き、直接声を聞くことから学びは始まるのだという先生方の教えが強く胸に残っています。また、ただお話を聞いて終わりではなく、周術期に注意すべき点を留意しながら診察をしたり、創部の観察をしたり、ドレーンの排液の確認をするのは想像以上に大変でした。しかし、医師になった時に、多くの患者さんを同時に、かつ安全に診ていくためには、こういった周術期管理についても理解を深めていかなければいけないと痛感しました。

回診では、ガーゼ交換、ドレーン抜去、抜鉤などを経験させていただきました。先生方の回診にただただついていくだけではなく、なるべく一人一人の患者さんの疾患を頭に入れたうえで、積極的に自分から動いていかねばならないと感じていました。しかしそう思いつつも、思うように体が動かず、動きも遅く、反省することも多かったです。気が利いて、テキパキと動ける医療者になれるよう、大学に戻ってからの実習でも周りを見ながら主体的に動くことを意識していきたいです。

同じ科で1か月実習をするというのは初めての経験でしたが、じっくり腰を据えて学ぶことで、多くの学び・気づきを得ることができました。

最後に松本先生、池永先生、澤野先生、神田先生、海老名先生をはじめとする先生方、看護師の皆さん、管理課の皆さん、本当にありがとうございました。また、まだまだ未熟な私の診察に付き合っていたいただいた患者さんにも心より感謝しています。三沢病院での経験をこれからの実習に活かし、よき医療者となれるよう精進します。

2022.10.31～2022.11.25

